

# 比較日本学教育研究センター研究年報 第13号 目次

## 《巻頭言》

古瀬 奈津子	4
--------	---

## 《第18回国際日本学シンポジウム》イメージと伝達の国際日本学

### 〈セッションⅠ〉異界との交流

田中 琢三 セッションⅠ 【総括】	6
-------------------	---

### 講演

篠田知和基	メリュジーヌ伝承から異類婚説話へ —罪とあやまち—	8
-------	------------------------------	---

### 研究発表

兼岡 理恵	異界との交通 —海幸山幸神話を中心に—	18
高 永爛	韓国文学における異界との交流譚—ドウドウリを中心に—	26
加藤 敦子	狐女房に見る異界 —二人の葛の葉が会おうこと—	31
中丸 禎子	バレエを踊る人魚姫 —「爪先立ち」があらわす異界—	39

### 〈セッションⅡ〉落語家が収集した一枚摺の世界

神田 由築	セッションⅡ 【総括】	50
中川 桂	噺家番付類に見る近世の桂文治代々	52
高橋 修	引札の文体考 —文書伝達と口頭伝達の間—	53
高山 慶子	お竹大日如来と江戸の庶民信仰 —『懐溜諸屑』を手がかりに—	55
大久保純一	『懐溜諸屑』から見る江戸の絵双紙屋	56

## 《第11回国際日本学コンソーシアム はたらく／あそぶ》

### ◆日本文学部会

黄 毓倫	詩「小岩井農場」の「自由射手」 <sup>フライシュツ</sup> とウェーバーの歌劇《魔弾の射手》 —宮沢賢治の「魔界」イメージをめぐる—	60
黄 馨誼	漱石と村上春樹の作品における女主人公の生き方 —『三四郎』の美禰子と『ノルウェイの森』の直子から見て—	67

ヴェベル・ミハエル	仕事でも遊べる	
	—安岡章太郎とハシェク・ヤロ斯拉フの短編小説におけるユーモアと皮肉—	74
范 淑文	主人公が演じた「働く」という行為	
	—夏目漱石『門』・村上春樹『スプートニクの恋人』をめぐって—	80
阿南 順子	ネオリベラル社会における女性の共同体	
	—やなぎみわのビジュアル・アーツ作品を例に—	87
谷口 幸代	概要	93
<b>◆日本文化部会</b>		
潘 蕾	遊戯から芸道へ	
	—院政時代の蹴鞠文化に関する一考察—	95
大藪 海	『洛中洛外図屏風』に描かれた中世京都の商人と職人	
	—「歴博甲本」人物データベースの活用—	102
サイジ・モンテイロ ダニエル	唐土と南蛮の交錯	
	—近世日本の宇宙観を巡って—	109
柳澤 京子	長州戦争と労働者	112
ルチエ・モルンシュタイノヴァー	近代における被差別民の社会的な地位	
	—日本とヨーロッパの簡略比較—	118
馬場 幸栄	臨時緯度観測所初代所長・木村栄と水沢宝生会	
	—天文学者・木村栄による宝生流謡曲サークル創設の経緯と背景—	123
マーティン ジュリアン	日本における高齢者雇用と人事管理	127
高橋 喜子	概要	132
<b>◆日本語・日本語教育学部会</b>		
小野 舞子	『サントスの御作業』におけるモノナリ文のモダリティ性	
	—近世語資料との比較対照を中心に—	135
曾 寶儀	「～さ」派生名詞と「～み」派生名詞に関する一考察	
	—共起表現をめぐって—	141
宋 恵仙	自動詞とモノゴトへの働きかけの他動詞のやりもらい性とボイス性	147
陶 思含	中国における高校日本語新人教師の不安についての事例研究	155
朱 桂栄	中国の日本語教育と協働学習	160
河野 礼実	概要	165
<b>《研究論文》</b>		
吉田 杉子	アダム・スミスの修辞学および文学講義から読み取れる コミュニケーションの可能性についての一考察	167
黒田 洋子	正倉院文書の「啓」・書状に見られる書の性格	175

## 《センター活動報告》

センター活動報告	184
研究プロジェクト活動報告	187
センター規則	194
投稿規定	196
第19回国際日本学シンポジウムのお知らせ	198
バックナンバーのご案内	199
編集委員より	200